

# 拒んだ春

核廃 東洋町の7カ月 ⑥

安芸郡東洋町の出直し町長選挙を、かたずをのんで注視していた自治体の一つが青森県だ。

同県六ヶ所村には、原発から出る使用済み核燃料の再処理工場がある。海外の再処理工場から返還された高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)も、ここで一時保管されている。

どこかに最終処分施設ができる村からガラス固化体が運び出され始める。選挙結果によっては東洋町の立地が進むと期待した人。同町が調査を拒否すれば、エネルギー政策の見直しにつながるかも...と思う人。六ヶ所村周辺の人に、さまざまな思いが交錯していた。

遠くに雪を抱く八甲田山が見える。白鳥が羽を休める湖沼やなだらかな丘陵状の畑、牧草地が広がる広大な村内を車で走ると、有刺鉄線の柵で囲まれた巨大施設がこつぜん姿を現す。昨年三月に試験運転を始めた日本原燃(本社・六ヶ所村)の使用済み核燃料再処理工場。ことし十一月に本格稼働すれば、平成三十二年までに約四万本のガラス固化体が敷地内に保管されることになる。国が進める「核燃料サイクル」の中心的施設と謳っている。

平成七年、海外から初めてガラス固化体が返還される際、「青森に(ガラス固化体が)永久に置かれるのは不安」といった県民の声が出た。この声を受け、当時の北村正武知事は国から「青森県を最終処分地にしてない」という確約を取った。以来、同県は三十五

# 約束は「一時貯蔵」

湖沼の向こうで夕暮れに浮かぶ「再処理工場」。暮らしたそばに核関連施設がある

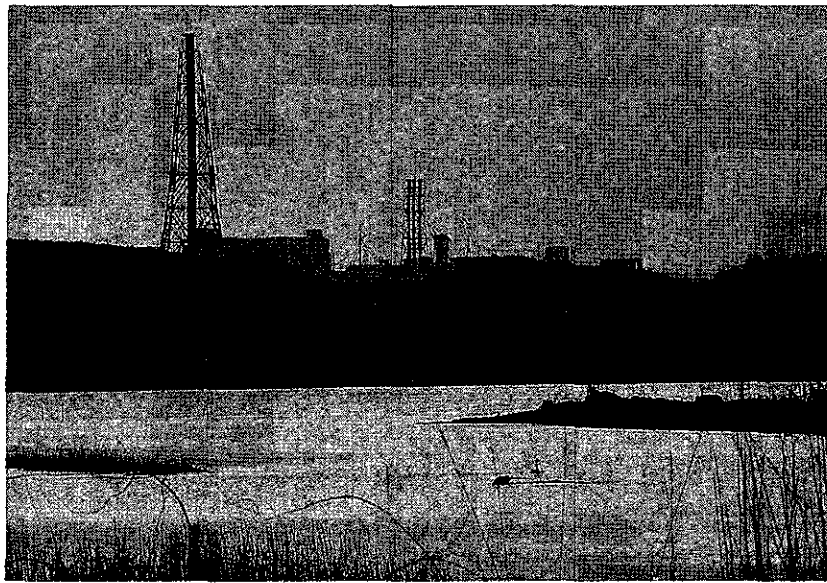
(青森県六ヶ所村)

「ソファに座ってましたよ」

体を少し前に乗り出した。「最終処分地の問題は、核燃料サイクル施設を誘致した時からの課題。サイクルを回すには『出口』(最終処分施設)をきちんとすることが大事です」

東洋町は施設立地の調査候補に手を挙げた全国唯一の自治体。そして選挙後、圧倒的大差でその手を下ろすことを決めた。ガラス固化体を六ヶ所村から移す候補地はこれでゼロに戻った。

選挙直後、古川村長に電話で話を聞くと、「(東洋町)を訪ねたのは東洋町長選挙のさなかだった。町長選ですか? 大い



十年間の一時貯蔵場所という立場を貫いている。同村役場に古川健治村長

を訪ねたのは東洋町長選挙のさなかだった。町長選ですか? 大い

町の住民が選択したことなのでコメントするのは失礼」と言葉少な。三村申吾青森県知事は「最終処分場は、早期選定を国に強く求めてきた。引き続き国などの動向を注視したい」とコメントを発表した。

ガラス固化体の行方を注視するのは行政関係者だけではない。同町の隣、三沢市のタクシードライバーは「青森県は中間貯蔵地だからずっとは置けねえ。どっかが持って行ってくればえいがない」。六ヶ所村の港で船を手入れしていた男性は「みんなが嫌がるもんを何でおらんだけに持ってくるんか。自分たちの生活から出た廃棄物だからみんなに義務がある」。同県に永

久保管されるような事態でもなれば、「怒るわ」とは決まるのだろうか。(社会部・竹村朋子)

六ヶ所村の周辺には、違う意味で東洋町長選に注目していた人たちがいる。同村に核燃料施設があることに反対する五十代の女性は「再処理工場から毎日出る放射能のことを考えると安心して暮らせない」と言い、核燃料サイクルそのものへの疑問を口にす。東洋町長選の結果によっては国の原子力政策が変わるのではないかと期待し、「最終処分地の候補地が決まらなければ核燃料サイクルも回りようがないのでは...」

「核燃料サイクル阻止二人訴訟原告団」(八戸市)の山田清彦事務局長は「原発を続ける限り最終処分施設は必要。今後も混乱、犠牲になる地域を生み出すことになる。国や電力会社が責任を持って核廃棄物を処分できないなら、原発をやめる議論をしなければならぬ」と話す。

再処理工場の本格稼働は半年後。核廃棄物の行き場は決まるのだろうか。